

# 寒風(かいざい) 温風

## マイナス金利と北海道



浜田 康行

もう1カ月ほどで新年度。

経済界の最大の関心は金利の行方だろう。それが経済指標の中でも特に重要だからだ。

資本主義の特徴のひとつは借金経済。つまり事業資金のかなりの部分を借り入れてまかない、もうけた利益で利子を払う。これで自己資金という枠から解放され、資本主義は成長してきた。

ヨーロッパのいくつかの国で、そして日本で、妙なことが起きた。マイナス金利だ。

借金して事業をやって利潤を獲得し、その内枠で利子・利息を払うのだから利子がゼロになることも、ましてやマイナスもないはずだ。ゼロなら貸し手のインセンティブがなくなり、借金すると利子がもら

## 「地方創生」手本目指そう

える、というマイナスは理解できない。

### 地銀経営に「重し」

実はちまたで言われているマイナス金利は、この世間的な話とは少しズレている。それは、もっぱら中央銀行(日本銀行)と市中の銀行の間で

生じている。銀行は中央銀行に資金を預けざるを得ない関係にある。だからマイナス金利は強制関係の中で発生する。「利子」というより「保管料」とみたほうがよい。

さて、この状況が2年も続いた。その結果、何が起きて何が起きなかったか。まずは起きなかったこと。

り、はたまた物価を上げたりすることはできない。一方、起きてしまったことは、銀行の収益が低下したことだ。特に本業の収益が低下した。利潤の源泉はいわゆる利ざやだ。「貸出金利」マイナス「預金金利」。預金金利はしばらく前からゼロに近い。しかし貸出金利もゼロに近づ

メガバンクは、もう日本国内ではもうけられないと見切つて海外に飛び出している。地方金融機関は、地方で生きていくことが半ば運命づけられているから、この手は簡単には使えない。銀行の頭取は、頭を抱えているはずだ。銀行も企業だから、何もしなくても人件費をはじめとする固定費は発生し、日々の重しとなる。

### 日本経済を保つ鍵

焦点は、来る日本銀行の総裁人事だが、あっさり続投が決まった。

私たちはどうするか。マクロ的には北海道の景気をよくする。それには「地方創生」の取り組みをこまめに展開することしかない。2014年にこれが唱えられた時は、あ

んなに盛り上がったのに、今はさっぱりだ。

しかし、この課題は日本の課題である。東京はすごい都市だけれど、これだけでは日本経済は保てない。住みやすい地方都市や田舎を維持することは必須だ。北海道は全国の手本になれる。人々の強い意志とリーダーシップ、政策の適度な度合いでのサポート、そして現存するさまざまな社会的資源(観光資源だけじゃない)の有効活用が、必要な3点セットだ。

銀行(金融機関)をどう経営するかというミクロの課題は経営者に任せるが、金融機関が地方創生の応援団であり重要なパートナーであることは言うまでもない。(はまだ・やすゆき―はまなす財団理事長)